

木曽山崎団地地区まちづくり 2024年度の取組みについて

1. まちづくり構想改定の背景と2024年度の取組みについて

町田市は、2013年に木曽山崎団地地区の少子高齢化等を受け、まちづくりの目標・方向性や将来像等を示した「町田市木曽山崎団地地区まちづくり構想」を策定しました。

その後、構想に基づき5つの学校跡地は山崎保育園、町田消防署、桜美林大学東京ひなたやまキャンパス、給食センターとして活用し、(仮称)町田木曽山崎パラアリーナの建設をもって、全ての学校跡地の整備が完了します。

また、2021年に多摩都市モノレールの延伸ルートが選定されました。

これらの状況を踏まえ、2024年度から「まちづくり検討会」を設置し、「まちづくりワークショップ」、「まちづくりアンケート」などにより、住民の意見を収集しながら、まちづくり構想改定に向けた検討を進めてきました。

2. 木曽山崎団地地区の検討対象区域

木曽山崎団地地区のまちづくりの範囲は下図の通りです。

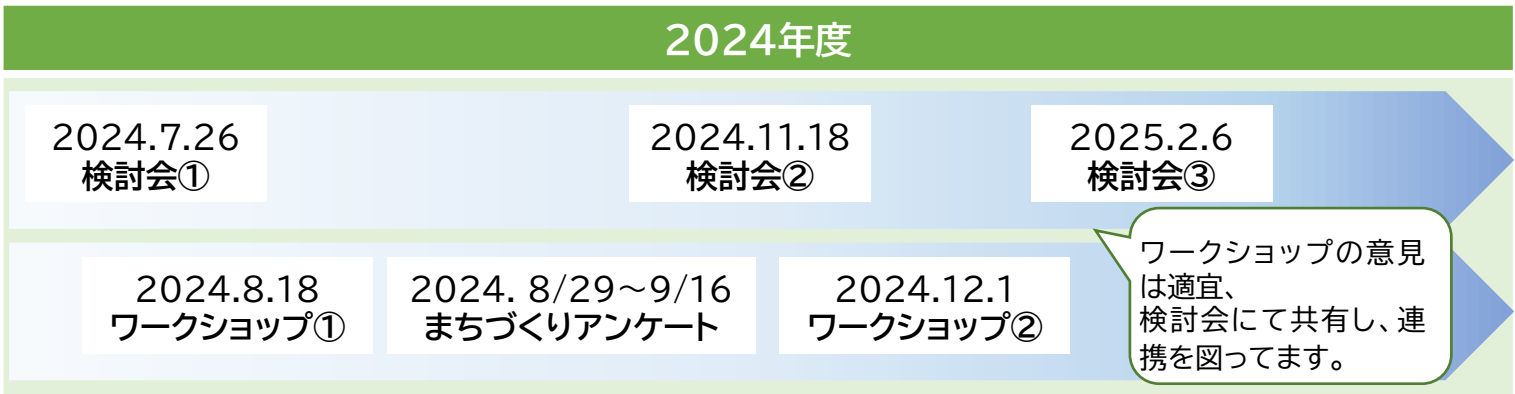


3. 目標年次

まちづくり構想の目標年次は2040年とします。「まちだ未来づくりビジョン2040」と「町田市都市づくりのマスタープラン」に基づき、2040年に向けて目指す将来の木曽山崎団地地区のすがたを「町田市木曽山崎団地地区まちづくり構想」として示します。

4. 2024年度の検討の進め方

2024年度は以下のスケジュールで検討を進めました。



5. これまでの検討状況

資料4

まちづくり検討会について

まちづくり検討会は、学識経験者や町内会・自治会・管理組合の代表を委員として、2024年7月に組成しました。検討会では、まちづくりの方向性について検討しています。2024年度は3回開催し、意見交換を行いました。

主な検討内容

- | | |
|-----------------------|--|
| 第1回検討会：
(2024年7月) | ・これまでのまちづくりの取組について
・ワークショップ、まちづくりアンケートの実施について |
| 第2回検討会：
(2024年11月) | ・地区の現状について
・ワークショップ、まちづくりアンケートの結果報告について
・まちづくりの課題整理、目標・方向性と取組例について |
| 第3回検討会：
(2025年2月) | ・まちづくりの課題整理、目標・方向性と取組例について
・木曽山崎団地地区の整備イメージについて
・まちづくり構想改定案について |



検討会の様子

まちづくり検討会 構成メンバー

まちづくり検討会会長

清水 哲夫氏(東京都立大学教授)

まちづくり検討会 委員

町田山崎団地自治会	本町田町内会
町田木曽団地自治会	千代ヶ丘自治会
木曽団地自治会	サンヒルズ町田山崎管理組合
町田木曽住宅ト号棟管理組合	町田山崎第二住宅管理組合法人
上山崎町内会	

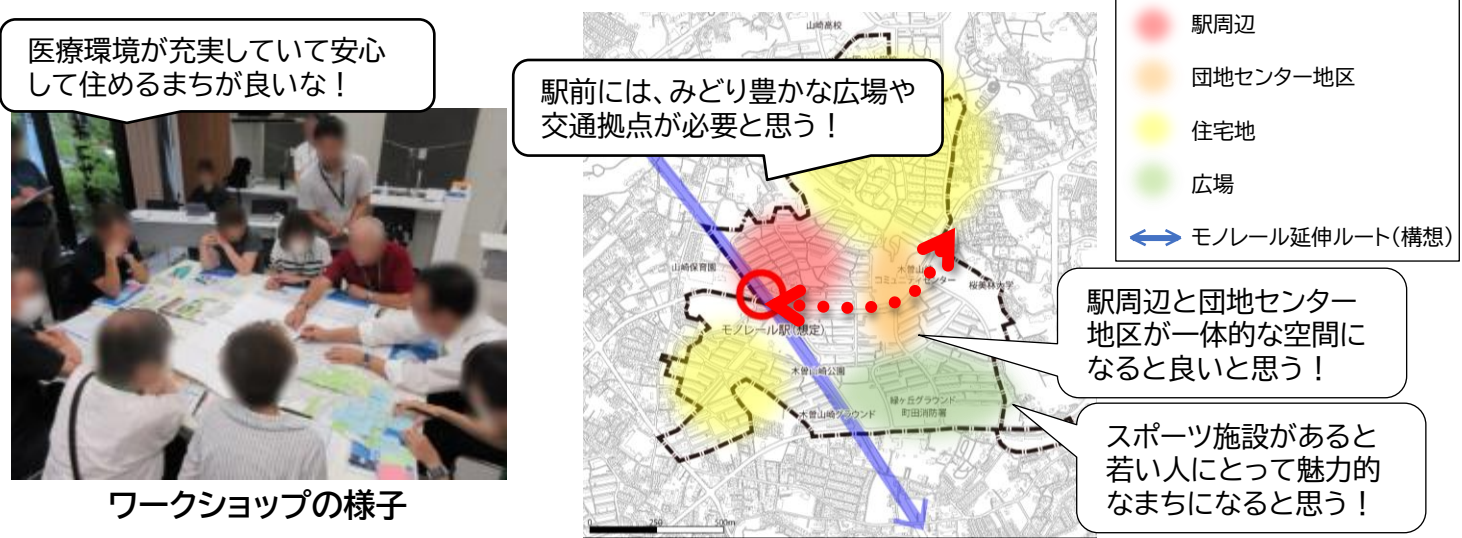
まちづくりワークショップについて

住民の皆さまからアイデアやご意見を頂くために、「まちづくりワークショップ」を実施しています。2024年度は、2回開催しました。

主な内容

- | | |
|---------------------------|--|
| 第1回ワークショップ：
(2024年8月) | ・現状の良い点、課題点
・将来のまちのあり方(住みたいまち、訪れたいまち、子どもにとって良いまち) |
| 第2回ワークショップ：
(2024年12月) | ・具体的な機能やまちのレイアウト
・モノレール駅周辺のまちの機能やレイアウト
・地区全体のまちのレイアウト
・地区内の交通について |

ワークショップで出た意見の一例



6. まちづくりアンケートの結果について

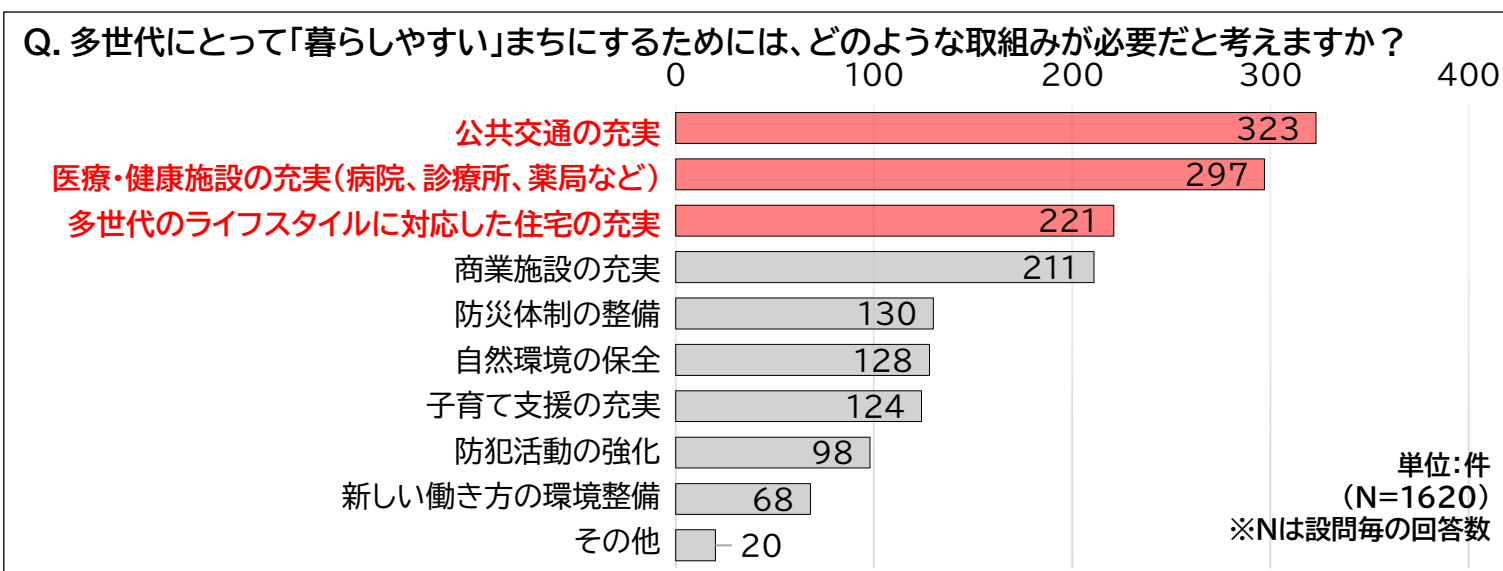
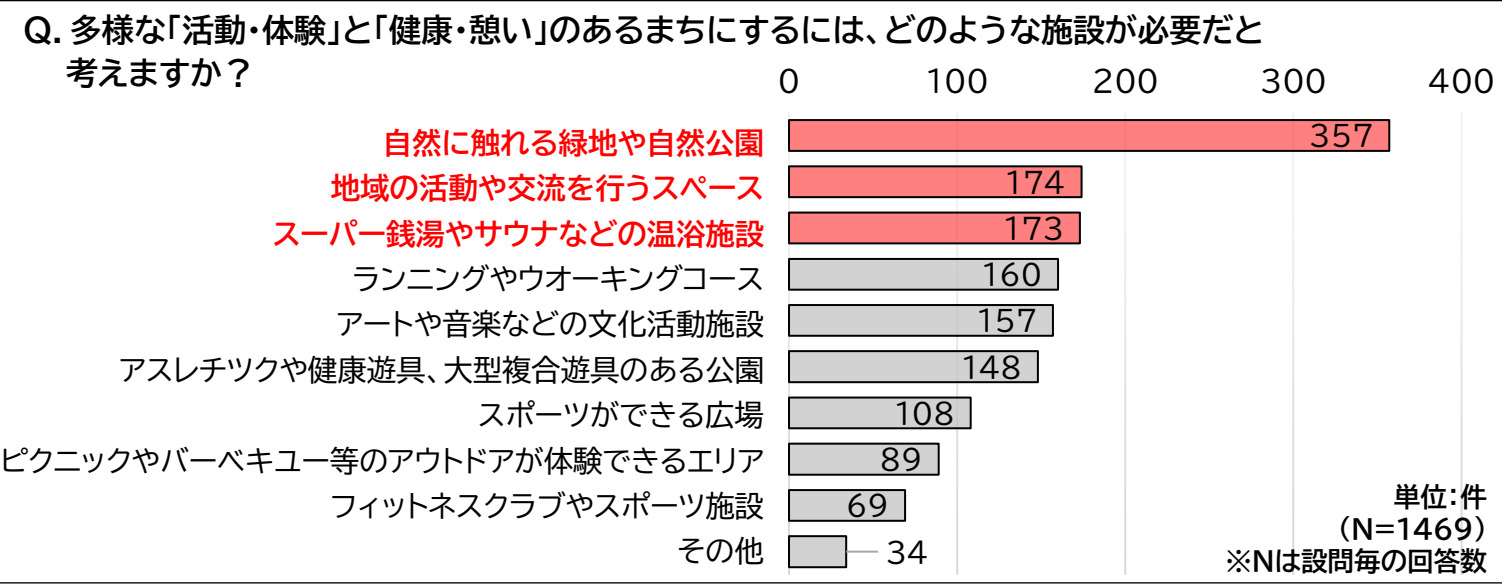
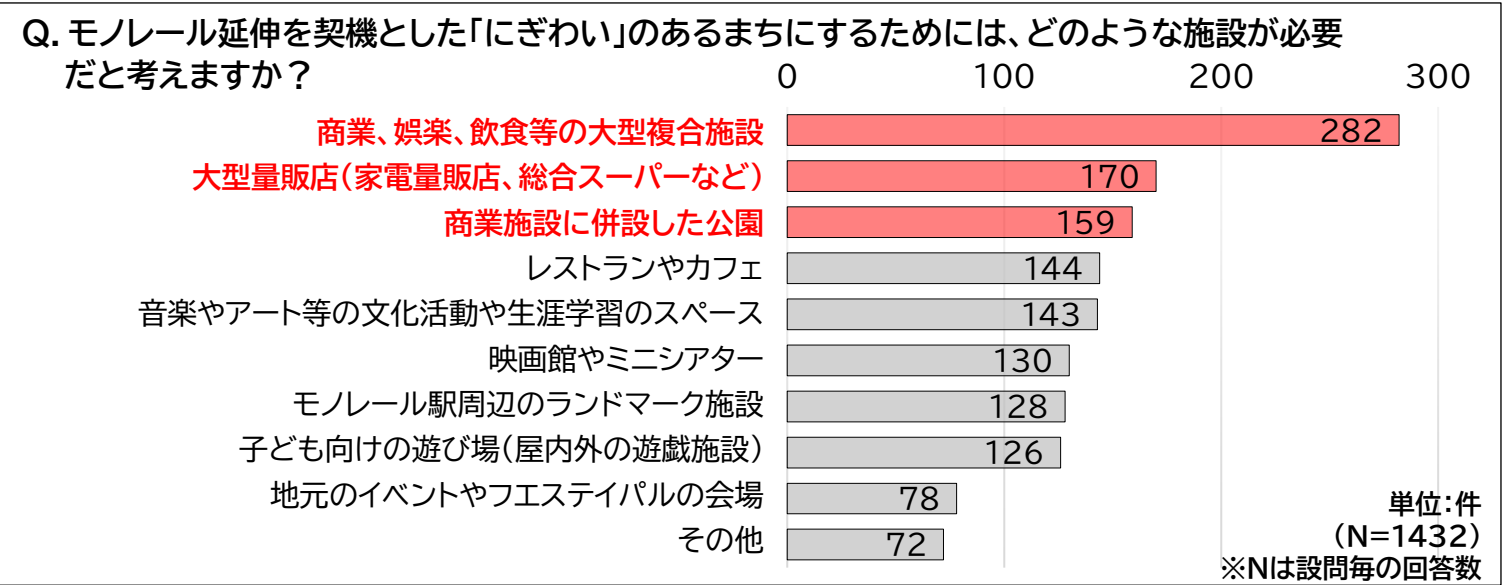
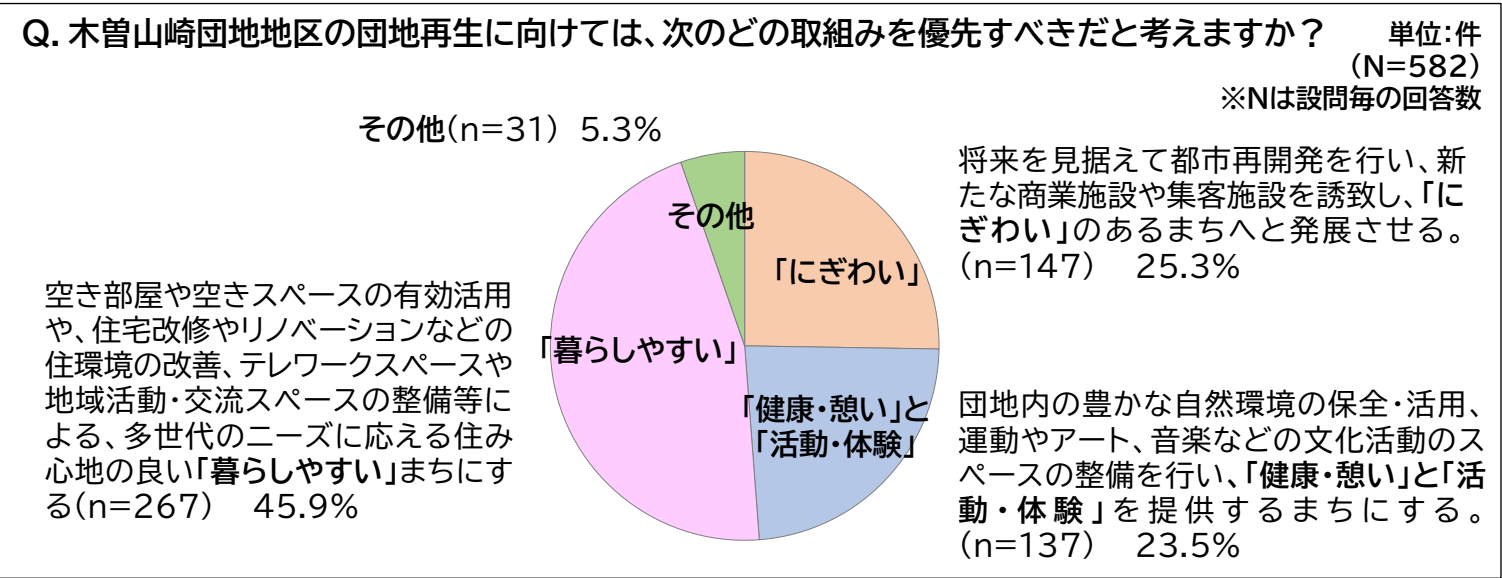
2024年8月にまちづくりアンケートを実施しました。その結果の一部をご紹介します。

調査方法：アンケート紙面の配布・回収、
Webでの回答

回答期間：2024年 8/29(木)～9/16(月)

周知方法：木曽山崎団地地区へ全戸配布 7,536 戸
地区内の幼稚園等での周知
広報まちだ、市ホームページへの掲載

回答状況：地区内回答数469件



その他、これからのまちづくりについて、様々なご意見がありました。主なものは以下の通りです。

安心・安全面の充実 (35件)	- 道路・公園等の公共空間のバリアフリー化の推進(4件) - 防災対策(6件) - 防犯対策(8件) - 子育て支援策の充実(3件) - 健康維持策の充実(10件) - 歩行者の安全性の向上(4件)
多世代交流の充実 (72件)	- 多世代の交流の推進(13件) - 住民同士のコミュニケーションの活性化(6件) - コミュニケーションが自然と促されるような仕掛けのある休息スペース等の充実(7件) - 多様な活動に対応できる施設の拡充(44件) - ボランティアやNPO等の活動を支援する体制(2件)
利便性の向上 (46件)	- 高齢者等の買い物難民に対する支援など生活支援の充実(9件) - 団地内や近隣を回遊するコミュニティバスなど地域の交通対策(6件) - 駅や拠点間をつなぐ公共交通の充実(31件)
まちの魅力の向上 (98件)	- 多様なニーズに対応した施設の整備など居住環境の改善(48件) - 魅力的な店舗や利便施設の導入(50件)
環境への配慮 (13件)	- 緑豊かな環境を活かしたまちづくりの推進(12件) - 環境負荷の低減・自然エネルギーの積極的導入(1件)

7. 今後の予定について

2026年3月のまちづくり構想の改定に向けて、以下のスケジュールを予定しています。

